



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ポートランド州立大学の一般教育改革と大学地域連携プログラム
Author(s)	横井, 敏郎; YOKOI, Toshiro
Citation	北海道大学大学院教育学研究科紀要, 81, 261-267
Issue Date	2000-06
DOI	<a href="https://doi.org/10.14943/b.edu.81.261">https://doi.org/10.14943/b.edu.81.261</a>
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/28811">https://hdl.handle.net/2115/28811</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	81_P261-267.pdf



# ポートランド州立大学の一般教育改革と 大学地域連携プログラム

横井 敏 郎

## General Education Reform and Community-University Partnerships Program at Portland State University

Toshiro YOKOI

### 目 次

はじめに .....	261
I ポートランド州立大学 (PSU) における一般教育カリキュラム改革 .....	261
1 カリキュラム改革とその目標 .....	261
2 一般教育カリキュラムの枠組み .....	262
II PSUの大学地域連携プログラム (Community-University Partnerships Program) .....	263
1 Capstone Courses .....	263
2 Community-based Learning Courses .....	263
3 Community Service Internships .....	264
4 Departmental Internships .....	264
5 Community Research .....	265
6 Individual Faculty Community Service .....	265
7 Community Partnerships .....	265
8 その他 .....	266
9 スタッフ .....	266
おわりに .....	266

### はじめに

1999年9月30日、本学部の50周年記念事業の1つとして、姉妹校であるアメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学 (Portland State University, 以下 PSU) の教育学部長・前教育学部長・副学長・前副学長を招聘し、シンポジウム「アメリカにおける教育改革と大学のとりくみ—ポートランド州立大学 (PSU) と PSU 教育学部のとりくみを素材として—」を開催した。筆者は PSU の大学地域連携プログラム (Community-University Partnerships Program) について紹介を行ったが、時間の関係で十分ではなかったため、ここで覚書として PSU の一般教育カリキュラム改革と大学地域連携プログラムについて簡単に記すこととする。

#### I ポートランド州立大学 (PSU) における一般教育カリキュラム改革

##### 1 カリキュラム改革とその目標

PSUの一般教育カリキュラムが改定され、実施に移されたのは1995年である。当時の学長(Judith Ramaley)と副学長(Michael Reardon)がカリキュラム改革チームを組織して、改革プランが策定された。これによってコミュニティとの連携がカリキュラムに制度化されることとなった。

Reardonによれば、PSUの一般教育カリキュラム改革においては、次のような一般教育についての概念が前提されたという(Reardon, 1998)。彼は教養教育とは区別される一般教育<sup>(1)</sup>の意義を強調しつつ、Gary Miller著『The Meaning of General Education』(1988)を引用する。

一般教育とは、自覚的に開発され維持されている包括的なプログラムで、個々の学生に次のことを身につけさせる。調べる態度、問題解決の技能、民主的な社会と結び付いた個人とコミュニティの価値などである。さらに、学生が生涯にわたる学習過程を維持するために、これらの態度、技能と価値を応用するために必要な知識、自己完結した個人としての民主主義の手続きを通して変化することを約束された社会の全面的な参加者としての機能などである。こうして一般教育は以下のように特徴づけられる。包括的な視野、学生と社会に直接関連した特殊で現実的な問題の強調、および将来の必要性。また教育の目的と同様に、教育における方法と手順に民主的な原則を応用すること。

アメリカの高等教育の発展の1つの到達点としてのこうした一般教育概念がPSUの新たな一般教育プログラムの基礎に据えられている。

PSUではこのカリキュラム改定によって以前とはかなりことなるプログラムを採用したようである。学生にこれまで以上に首尾一貫した結合力ある学習を提供し、最終的には生涯学習し続ける態度と技能を身につけさせることが目指され、単に学部の学習経験を拡大させるだけでなく研究を基礎に置いたプログラムが計画された。そこでは、①共同作業能力を身につけさせ、学生にチームワークの経験を提供する、②この大学の低い在学率と卒業率の改善に取り組む、③中・高等学校およびコミュニティ・カレッジとの調整を築く、④必修のコミュニティ学習の経験を通して、コミュニティとの関係を格段に改善する、の4つが目標とされた。この目標のためには、チーム教育、学際的なプログラムとコースのクラスター、コース中のアカデミックなスキルの統合、カリキュラム全体に多様性と多文化的課題を含ませること、学生のソーシャル・サービスとソーシャル・スタディ、学生-学生および教員-学生間の相互作用の強化、が重要な要素であるとされた。

## 2 一般教育カリキュラムの枠組み

PSUの一般教育カリキュラムの大きな枠組みは次のようになっている。

1年生のすべての学生はまず「Freshman Inquiry Courses」という1年間のコースを履修する。学生は5つの異なるトピックから1つを選択する。授業はグループ討論と講義からなり、授業で与えられた課題をもとに討論する。ここには「Mentored Inquiry Section」があり、1週間に2回集まって学生はPeer Mentorsからコンピューター技能や研究・著述の技能を共同で学ぶ。2年生は3つの「Sophomore Inquiry Courses」を履修し、主専攻とは異なるトピックについて学ぶ。3年生は「Sophomore Inquiry Courses」の各主題の上級コースから1つのクラスターを選択し、そのテーマをより深く学習する(この主題も学生の主専攻とは異なるものである)。最後に4年生になると、「Capstone Courses」を履修する。これは学部を越えて集まった学生からなり、ふつう1人の教員が指導する地域連携プロジェクトである。これについては後述する。PSUではこのように4年間にわたって一般教育カリキュラムが配置されている。この一般教育プログラムでは学年ごとにアトラングムに学生が主題を選ぶことを期待されていない。1年生では5つの主

題から1つを選択するが、3年生への移行の際には2年生の3つの主題のうちの1つを深めることが要求される。また3年生で学習するのは1つの主題のもとにある複数の科目からなるクラスターである。4年生では、3年生のクラスターに関わる Capstone プロジェクトをとることが望ましいとされる。

## II PSUの大学地域連携プログラム (Community-University Partnerships Program)

PSU のカリキュラムにおいては、縦軸として上のように1年生から4年生にわたって一般教育が配置される一方で、横軸として多様な大学地域連携プログラムが設けられている。それは、①Capstone Courses, ②Community-based Learning Courses, ③Community Service Internships, ④Departmental Internships, ⑤Community Research, ⑥Individual Faculty Community Service, ⑦Community Partnerships, の7つである (以下の説明での事例はすべて1995年から1997年のものである)。

### 1 Capstone Courses

これは一般教育カリキュラムの一部であり、その仕上げになる実践的教育 (educational experience) である。4年生の必修であり、6単位、期間は2クォーター (セメスター) である。これは大学に学習共同体を作りだすとともに、community-based learning に学生を引き入れるようにデザインされている。これによって学生は少なくとも1つの地域に密着した学習の経験を持つことになる。これは学生に大都市のコミュニティから生じる問題に自分たちの技能を応用する機会を与え、チームで問題を解決する経験を与えることを目指しており、都市型大学としての使命を果たすという PSU の責任を反映するものである。

「Capstone Courses」は3つの目的をもっている。①学生が主専攻で学んだ専門的知識を現実の主題と問題に適用する機会を与える、②学生に、専門の異なった領域の人々と協力することが必要なチームの中で働くという経験をさせる、③学生が積極的にコミュニティに関係する機会を与える。

コミュニティ・パートナーのリストがクラスに配布され、そこから学生が希望のプロジェクトを選択して、多様な学科から学生が集まった学際的なチームが作られる。このチームを1人か2人の教員が指導する。

プロジェクトの内容は、たとえば、ポートランド公立学区・オレゴン地理学連盟と共同で、小中高校の教員がポートランド中心市街地でのフィールド活動を行うのに使用できるフィールドガイドを作成、更新したり、ある中学校と共同でカリキュラム改善とその実践を行ったり、社会福祉団体と協力して近年の社会福祉改革のリサーチを検証し、オレゴン州の社会福祉政策を分析してコミュニティ・レポートにまとめるといったものである。

こうしたプロジェクトを行うに当たって、学生には調査スキルを教えたり、レポートの書き方を指導する担当者と呼ぶことができる。プロジェクトを指導する教員は、促進者 (facilitator) の役割を果たし、時には instructor となる。

### 2 Community-based Learning Courses

これは大学でのアカデミックな学習内容とコミュニティ・プロジェクトの結合を目的とする。教員と学生がコミュニティのニーズに応えようとするもので、学生は地域活動に参加して学習内

容との関連性についての理解を深めるのに加えて、実際にコミュニティにサービスを提供する。これによって、コミュニティは学生の援助を受けることができ、大学は教育と学習を発展させることができる。参加学生の学年は特定されておらず、院生グループも参加している。

このラーニング・コースの中の〈教育〉という分野では、この間に9つのプロジェクトが実施された。例をあげれば、「Advanced Secondary Methods : Science」というプロジェクトでは、15人の院生が MESA (Mathematics, Engineering, Science Achievement) という団体のプログラムでマイノリティの学生のための教育・学習ワークショップを企画した。「Introduction to Education」というプロジェクトでは、50名の学生・院生が、ポートランド黒人教会 (Urban League)・ポートランド公立学校学区と共同で学区の移民教育プログラムで成績不振の生徒にアカデミックな学習指導を行った。「Field Centered Activities (Graduate Teacher Education Program, GTEP)」では、GTEPの院生が民間産業会議 (Private Industry Council) などと共同してある NPO 団体のためにボランティアとしてシンポジウムを手伝った。

別の分野では、黒人教会 (Urban League) からワシントン郡・マルトノマ郡の黒人の子ども状態調査の依頼があり、30人の学生が半年がかりで調査を行い、調査書を刊行するなどしている。

ちなみに1998年度は教員43名、学生1007名、院生258名が参加した。プロジェクトのテーマ・内容は学校への関係が多い。毎年およそ500名の学生をチューターとして学校に送っているということである。時間数は週2～3時間で1学期間続く。

### 3 Community Service Internships

学生は大学で習得した専門的技術を実際に用いるためにコミュニティに場 (sites) をもつことができる。インターンシップと実践は大学とコミュニティとの両方の責任において監督、指導される。コミュニティと大学は共同で学生を教育し、学生が将来職業に就いて専門的な役割を果たせるように準備をさせる。

たとえば、次のようなインターンシップが行われている。中退の復学やギャング化しつつある青少年を対象にしたオールタナティヴ高校である Albina Youth Opportunity School では教員の補助とチューターを提供した。Centers for Airway Science では、中学校の数理科学でフライトシミュレーターや大地図、計算機を用いてチューターをやり、モデル作成を指導したり機内見学をガイドした。Chines Service Center Inc. では、アメリカでアジア人向けに用いられている ESL (English as second language) の多様なマルチメディア・モデルの研究を行い、インターンはこのセンターのために自らもそのモデルを実践し、報告書を共同執筆している。Lent Elementary School では、学校の管理職・スタッフとサマースクールの期間に生徒をコース分けする方法を作った。ここでは10日間管理業務のサポートをフルタイムで提供し、生徒、教員、スタッフにインタビューしてプロジェクト後の評価法を開発した。

### 4 Departmental Internships

これは学科単位のインターンシップである。たとえば、Counselor Education 学科 (Department) では、ある教員のコーディネートで複数の高校、小学校でカウンセリングをした。Public Health Education 学科では、クラッカマス・コミュニティ・カレッジ、ヘルス・システム、スポーツケア・フィジカルセラピー・センター、コミュニティ・センター、インドアサッカーチームなどで、クライアントに運動テストと結果の説明をしたり、運動・栄養・ストレス・マネジメントのブラ

ン開発を行った。オレゴン健康科学大学では、英語を話せない人々に医療診断の解説を行った。

## 5 Community Research

このリサーチは、ニーズ、問題、関心、情報の欠如に応じて、大学（学部または学科の教員が個人、グループで）とコミュニティ（サービス機関、団体、企業、協同組織）のどちらから提起されてもよい。ここではコミュニティの広範な参加が可能になる。もっとも単純なレベルの参加は、地域が研究してもらいたい課題を提出することである。もっとも複雑なレベルの参加は、地域が調査項目から、調査の計画、調査の設定、データ収集、結論の作成までを行うものである。

たとえば、教育行財政研究（Educational Policy, Foundations, and Administrative Studies）学科では、3年間行われたきたアメリカープのプロジェクトに対して研究、評価を行った。特に中高校でのアメリカープのメンバーのチューターとしての役割について調査している。

## 6 Individual Faculty Community Service

これは、教員が個人でコミュニティと市民に余り手間をかけ過ぎない形で手の空いている時間にコミュニティに有意義なサービスを提供し、専門知識を用いてコミュニティ・ニーズに応え、その課題に取り組むものである。それには都市ポートランドと地球社会の生活の質の向上に大きな寄与をするという理念が置かれている。

Special Education and Counselor Education 学科の例を見よう。たとえば、ある教員は、ポートランド公立学校学区に the High School Transition Program to PSU campus を作り、15の高校の特別なニーズをもった生徒の要求に応じて仕事の体験と授業の機会を提供した。別の教員は、2年以上にわたってフッド山のクワニス・キャンプで300人以上の障害をもった生徒にサービスを提供するクワニス・キャンプをコーディネートしてきた。また100人以上の学部学生と院生がカウンセラーとしてキャンプで働いている。Grace Hobbs Center などで障害者が利用可能な形態のハイテク・ツールを使って効果的にアクセスできるように援助した教員もいる。1995年から1998年までの間に複数の教員たちによって Community-Based Counseling Clinic や PSU での72以上の学生のための実習を通して200人以上の人々に、心理学的、人間関係論的、職業的、教育的なカウンセリング・サービスを提供された。

## 7 Community Partnerships

パートナーシップは信頼、責任の共有、共通のゴールによって特徴付けられるとき、相互に利益になる関係となるという理念のもとに、PSU では多様なパートナーシップがコミュニティと結ばれている。それは短期間の限られた関係の場合もあれば、長期間の継続的な関係の場合もある。明文化された申し合わせや契約書をもつ公式な場合もあり、口約束の非公式の場合もある。

教育学部の Professional Development Partnerships (PDP) の例を見よう。教育学部は全学科の教員の参加を得て、都心部の4つの小学校と PDP を結んでいる。これは、学校と大学がともに直面している急激な変化に方向付けを与えるために両者がリーダーシップをとることができるようなセッティングを提供するものである。D. Stevens が教員養成、アクション・リサーチ、現職教育の日程をコーディネートしている。学校はオレゴン州教育局から補助金の給付を受け、州の新しい教育目標「Goals 2000」に挑戦している。またこれらの学校は1997-98年度の「Capstone Courses」のための場 (sites) ともなっている。

## 8 その他

以上が PSU の大学地域連携プログラムであるが、他の教育・学習場面でも地域連携が取り入れられているものがある。1年生が履修する「Freshman Inquiry Courses」ではこの3年間、コミュニティ・サービスが授業に取り入れられてきた。たとえば、多元社会をテーマとするグループではポートランド・コミュニティ・カレッジのプログラムで英語の話せない若年者・成人のためにチューターを行った。学生たちは正規のプログラム場面だけでなく、その人たちの家でまでチューターをやり、家族全員を教えることもあった。学生および教員は、小学生にアインシュタインとその人生、思想について教える「アインシュタインの宇宙を理解する」というプログラムに参加することが義務づけられている。これによって、ステファンソン小学校の1, 3, 4年生はアインシュタイン理論に基づいた実験を行ってみることができた。その他に都市の自然環境について探索したり、ホームレスや近隣環境問題を調査したり、市街地の歩道環境を研究したり、公立学校の移民のためのチューターを務めたりしたグループもあった。

## 9 スタッフ

PSU の Capstone Courses, Community-based Learning Courses を始めとする大学地域連携教育プログラムを担うスタッフは次の通りである。

Community-University Partnerships のオフィスがあり、専任スタッフがいる。ディレクターは1名 (Amy Driscoll) で、コミュニティからオフィスにきた依頼を検討して、適切な教員に取り次ぐとともに、オフィス全般を管轄する。コミュニティと大学を仲介するコーディネーターがおり、学生とコミュニティの間に立って方向付けをする助手もいる。

1999年度のコースを担当した教員は、Community-based Learning Courses が70人、Capstone Courses が70人、1年生担当教員が30人 (1人1コース) であった。

## おわりに

わが国では大学改革のモデルとしてしばしばアメリカを引き合いに出すが、アメリカの大学がこれまで大した困難もなく歩んできたわけではない。PSU の状況を見ると、学生教育や大学と社会との関係のあり方など、私たちと共通する課題をアメリカの大学も持っていることが分かる。その意味でわれわれより一歩リードしている PSU の改革は非常に興味深いものである。

PSU の一般教育改革と大学地域連携プログラムを通じてとらえられるものは、大学の中に孤立化し分散していた知を社会に開きながら統合するという知の転換である。これまでの大学の知が社会との関係性の中で生み出されながら社会を疎外するものであったとするなら、この間の PSU の改革は知の転換によって大学と社会との関係を組み直そうとするものであった。これはまさにわれわれがいま求められているものである。

Community-University Partnerships Program の Director, Amy Driscoll に PSU の地域連携教育の意義について聞いた。彼女の言葉で本稿を締めくくりたい。「地域連携教育は、ただボランティアを送り出しているものではありません。学生はコミュニティに教えることで自ら学ぶのです。学生は学校で学べないことをコミュニティで学びます。学校で学んだことが地域で初めて意味をもって来る。具体的な文脈と意味の中に大学での学習=学問をおくことができる、ここに地域連携教育の意義があります」。

〈注〉

- (1) 一般教育概念と教養教育概念の違いについては、本紀要のシンポジウムでの Reardon 氏の発言を参照されたい。

**\*参考文献ほか**

- M. Reardon “New Aspects of General Education” (『高等教育ジャーナル』 3, 1998年)
- 小出達夫「大学・地域・教育改革 (資料と解説) — ポートランド州立大学の地域連携プログラム —」 (『生涯学習研究年報』 6, 1999年)
- PSU “Community-University Partnerships at Portland State University 1995-97”
- Community-University Partnerships ProgramのDirector (Amy Driscoll) への聞き取り (1998年)